■ひょうごヒューマンインタビュー

井戸敏三副知事を訪ねて

健康で安心して暮らせる長寿社会をめざして

高齢化が加速している中、兵庫県では、県民一人ひとりの健康づくりの支援や、介護基盤整備などを積極的に推進し、誰もが健康で生きがいを持って安心して生活できる長寿社会の構築をめざしています。
今回は、兵庫県副知事の井戸敏三さんにご自身の話を交えながら、こうした県の取り組みについて語っていただきました。

いど・としぞう

1945年兵庫県生まれ。68年に東京大学法学部を卒業後、自治省に入省。静岡県総務部長、自治大臣官房総務課長（震災時）、審議官を経て、96年に兵庫県副知事に就任。趣味はタウンウォッチング

『健康寿命』も世界一

—最近は、中高年の登山ブームであったり、元気な高齢者の姿をお見かけする機会が多くなったように思います。

そうですね。私も今朝、諏訪山に登山に行かれるご老人の団体をお見かけしました。暑い中、皆さんお元気だなと思いました。

こうした元気な高齢者の割合が、他の国に比べても多いということを示した指標があります。先般、世界保健機関（WHO）は、平均寿命から病気や事故などで健康を損ねた年月を差し引いた『健康寿命』という新たな指標を発表しました。それによると、日本は七十四・五歳となっており、平均寿命だけでなく、元気な高齢者の割合も世界一となっているんですよ。

充実した〃第三の人生〃を

—長寿化が進む中、どのような取り組みが求められているとお考えですか。

例えば、私は今五十五歳なんですが、平均寿命から考えると人生

を全うするまでには少なくとも二十数年はあるんですね。この期間をいかに健康で自立して生涯を送れるか、そして定年後、いわば〝第三の人生〟を生きがいをもち充実して過ごせることができるかが、私を含めて全ての人にとっての最大の関心事であり、切実な願いではないでしょうか。

二年前に高齢化と健康問題を考えるWHOシンポジウムで採択された神戸宣言では「長寿社会における健康への投資は、さらなる発展のための投資である」と述べられています。今後は、『健康寿命』と『平均寿命』の差をさらに縮めていく取り組みと、〝第三の人生〟を高齢者が健康で充実した生活を送れる環境を整備していくことがますます重要になってくると考えています。

健康づくりを応援

—健康で長生きできる社会づくりに向けて、具体的にどのような取り組みを進めているのですか。

住まいの近くでは、毎朝、大勢の方が元気に太極拳や体操をやっておられます。残念ながら、私は寝坊なのであまり参加したことはないんですが（笑）。県では、このような県民の皆さんの主体的な健康増進活動を支援していくため、今年三月に策定した県民一人ひとりの健康づくりのガイドライン「健康づくり県民行動指標」の普及啓発に努めるとともに、生活習慣の改善を促し、『健康寿命』の伸長をめざす「健康づくり県民運動」を展開していきたいと考えています。これらをきっかけに、皆さんの健康への意識が高められ、生涯に渡る健康行動につながっていけばと願っています。

さらに、来るべき長寿社会の実現に向けた取り組みとして、「長寿の郷」構想を進めていきたいと考えています。これは、高齢者の新たなライフスタイルを創造、発信するとともに、自然あふれる豊かな空間の中で世代間交流を大きく育む場を提案し、実現していこうとするものです。各地域の実情に応じて県下全域に展開していきたいと思っているんですよ。

また、神戸新都心では、「阪神・淡路大震災メモリアルセンター（仮称）」と連携を図り「ヘルスケアパーク（仮称）」の整備を進めています。阪神・淡路大震災で学んだ〝いのちの尊さと生きていることの素晴らしさ〟を展示等を通じて神戸から発信していきたいと思っています。

万一の時の〝備え〟介護保険制度

—長寿社会下では、寝たきりなど介護に対しての不安も大きいものです。その不安を払拭するため、社会全体で介護を支える「介護保険制度」が今年四月にスタートしましたね。

介護保険制度は、県民の皆さんの理解もあり、総じて順調にスタートできました。

成熟社会下における社会福祉サービスのあり方が変わりつつあります。この制度は『措置から契約へ』と言われるように、従来のサービスが一律であったのに対し、介護度に応じて利用者がふさわしいサービスの組み合わせを選択することができる仕組みとなっています。いわば、社会全体で介護を支える安全装置（セイフティ・ネット）といえると思います。

県では、この制度の円滑な運用を図るため、県下七カ所に「介護保険相談センター」を設置し、県民の皆さんからの制度に関する疑問や相談にお応えしているほか、特別養護老人ホームの整備など介護基盤整備を進めています。

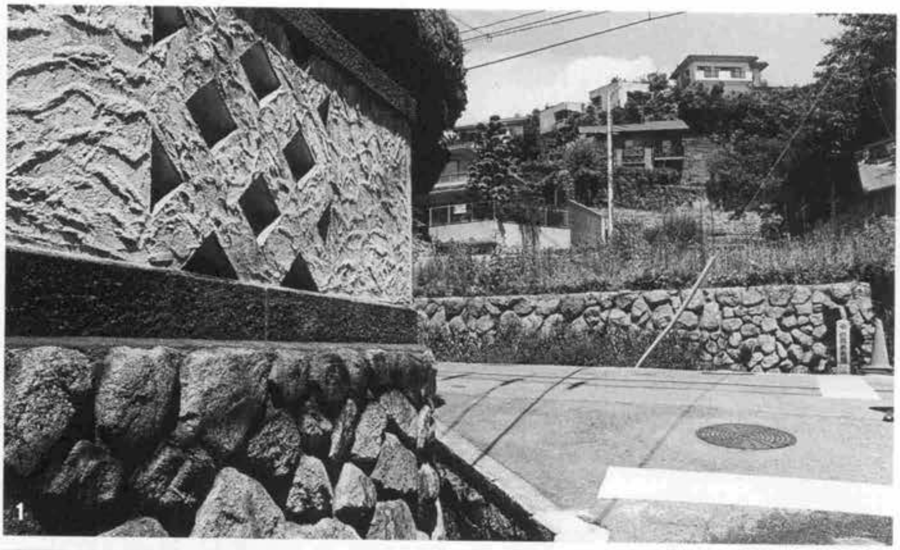
今年十月からは、いよいよ六十五歳以上の第一号被保険者への保険料徴収が始まります。ぜひとも保険料の負担にご理解を賜りたいと思います。

二十一世紀を間近に控え、高齢化や長寿化が進展する中、誰もが、いつまでも健康で安心でき、そして介護が必要になってもできるかぎり自立した生活が送れる、そんな理想の長寿社会の実現をめざしていきたいと思います。

（八月十一日兵庫県副知事室にて）

神戸のアーバンデザイン⑨
―神戸の都市空間は豊かになったか―

武田則明
（建築家）



1 生け垣があって緑が多い町並　2 ミニ開発の結果だろうか？駐車場がめだつ

　私の家の前は、150坪あまりの敷地に和風2階建てに、一部下見板張りベイウィンドウの応接間のついたお洒落な西洋館付きの住宅であった。石組みの池には緋鯉が飼われていた。玄関には見越の松が植えられ、セメント煉瓦の塀越しに柊や椿が路地に枝をはっていた。この屋敷は植え込みのある門付き路地の奥にあり、植え込みには柿や青木の大木が並んでおり、当時新館と呼ばれていた。木造門付き長家の町中でそこだけがやけに新しく見えたからだろう。

　時代の流れか、お屋敷は人手に渡り、マンションに建て替えられた。庭は駐車場になり、路地の木は切り倒された。持ち主もここに住んでいるが、4台の駐車料金収入のためにあの豊かな庭と緑の環境を壊してしまった。限られた人生を美しい環境のもとで豊かに暮らすことよりも、現金収入の方を選んだということであろうか。

　私達はちょっとした便利さや、その収入のために大事なものを壊してきた。本来ならばその損得を計算してから決断するのに、それをしないで目先の損得だけを考えて行動してきたと思う。

　このような問題は日本国中で起きている。大きな屋敷が壊され、ミニ開発が推し進められた。確かに個人の所得の問題や人生観の問題であるが、環境の問題は個人の領域を越える問題であるだろう。日本人がいかにお金もちになったところで、貧しい環境のもとで暮らすのは本末転倒といえる。

　私達は旅をする。ローマやパリなどの古い町並みを訪ねる。その町には人間の歴史、文化があるからだろう。日本人は過去の文化である町並みを古く使いにくいとの理由で、壊し作り変えてきた。そして日本の新しい住宅の平均寿命は24年である。作っては壊して今日の日本の町並みを消費してきた。これではいつまでたっても町並みは醸成しない。神戸は阪神大震災にあったが、あっという間に復興した。しかし本当に復興したのだろうか。もっと時間をかけて私達の愛する町を復興するべきだと思う。全国同じスタイル、同じコロニアル葺き屋根、サイディング、一見下見板風の外装は大量生産品である。また、無国籍な住宅街が形成されてきた。これは24年仮設住宅かもしれない。そろそろ神戸の個性ある町並みを作ろう。少し不便でもよい。豊かな家を作ろう。誇れる町を作ろう。

神戸のモダーンリビング⑨

—オレンジヒルの家 その2 土間空間をもつ家—

有村桂子
〈いるか設計集団〉

1・2 アトリエスペース
3 1階平面図
4 オレンジヒルの街並

E・ハワードによる田園都市理論は、産業革命によって人口が都市に集中したためにおきた劣悪住居の発生や、工場から吐き出される煤煙や汚水による都市居住環境の劣悪化から逃れるために、自然環境豊かな田園に住居をつくりだそうというものであった。ロンドン郊外のレッチワースやウェルウィンにその理念は実現され、いろいろな紆余曲折はあったろうが、現代にいたるまで、その美しい風景は住民ばかりでなく、訪れる人々の目をも楽しませている。

日本における明治以降の新都市計画にも、大きな影響を与えてきた理論である。田園調布の計画もレッチワースを見学した人による計画であったし、大正、昭和初期の阪急電鉄による住宅地開発も田園都市理論が反映されていた。一方、これらの住宅地の住宅デザインは、アメリカからやってきた宣教師たちがもたらしたスパニッシュミッションスタイルが多くみうけられた。

北神地域のオレンジヒル（新星和不動産）は、大阪、神戸など勤務地の郊外の町として計画された住宅街である。豊かな植栽、テラコッタプランターなどで装飾された、赤瓦とベージュの外壁をもつ町並はスパニッシュミッションの現代日本版といってもよいだろう。町並の風景は、スパニッシュミッションスタイルの住宅が多く建築されたフロリダやカリフォルニアの暖かい風を感じさせる。

ここで紹介している住宅は、フレキシブルルームとしてタイル貼の土間空間をもっている。ひと昔前の住宅は、様々な形で土間空間をもっていた。特に住生活が生産と分離されていない場合には、重要な役割、意味合いがあった。現代における土間空間は、住生活の多様性や豊かさをつくり出している。リビングに隣接したこの空間は、住む家族のための色々な可能性を引きだしてくれそうだ。陶芸や織物のためのアトリエスペースや、居間の延長として使ったり、共に暮らす大きなワンちゃんの部屋であってもよい。

ゆったりとした暮らしを楽しむためには、このような住空間が必要だ。それと同時に豊かな周辺環境がなくてはならない。現代の田園都市ともいえるオレンジヒルだからこそ得ることのできる暮らしである。

ARTIST INTERVIEW!

久々に里帰り リサイタルを開催

高 丈二さん 〈テノール歌手〉

神戸出身でテノール歌手として幅広く活躍を続ける高丈二さんが、このほど久々に神戸でリサイタルを開いた。高さんは神戸高校を卒業後、東京芸術大学声楽科、同大学院オペラ科に進み、モーツァルトの歌劇「魔笛」でデビュー。以来、今日まで日本を代表するテナーとして確固たる地位を築いてきた。神戸朝日ホールで満席の聴衆を前に開かれたリサイタルは、まさに日本の声楽界にこの人ありを深く印象づけた感動の一夜であった。その高さんに話を伺った。

—今回のリサイタルの曲目は、チマーラ、マスカーニ、トスティ、ドニゼッティ、マスネのイタリア歌曲とオペラ・アリアが中心ですが、高さんはイタリアへ留学されましたね。

高 そうです。'68年にミラノへ行き、ヴェルディ音楽院研究科に入学、E・カンポガッリアーニに師事しました。

—何年おられたのですか。

高 3年10か月です。その間、コンクールやオペラに出演していました。

—'71年に帰国されるまで、エンナ市国際音楽コンクール声楽部門第3位、メラーノ市国際オペラコンクール第2位に入賞され、ミラノやジェノヴァでは「セヴィリアの理髪師」のアルマヴィーヴァ伯爵を歌うなど、大変な活躍ぶりですね。イタリアへ行かれて一番感じたことは何ですか。

高 まず、ヨーロッパ音楽の歴史の長さと深さ。カルチャーショックでした。アジア人にはハンディがあるという思いに取りつかれ、最初の1年ぐらいは勉強に手がつかないという状態でした。しかし、やがて気がつきました。音楽は世界の財産なのだから、何もヨーロッパ人の真似をする必要はない。アジア人である我々自身の音楽をやればいい。ヨーロッパ音楽を自分なりに咀嚼し、我々の肉体、習慣、思考にあった音楽をやるべきだと。こう考え直したら、スッキリとして気分的にも整理がつきました。

—帰国されてからは、主に二期会のオペラに出演されましたが、イタリアで勉強されたことが生きたということですか。

高 イタリアで教えられたことが少しずつ分って来たのは、40歳を過ぎてからで、それが楽しくもありました。次第に声や表現が変わって来たのが自分でも分かりました。

—今回のリサイタルでは、中国の歌曲・民謡も歌われましたが、中国語の歌にも積極的に取り組んでおられるのですか。

高 イタリアで勉強したことを、アジアでどう育て表現して行くか。そのためには日本の歌だけではなく、中国の歌の発声法も用いるべきだと思い、現地へ行き始めて25～26年になります。中国の創作オペラ「白蛇伝」などにも出演しましたが、それなりに苦労はしました。自分の声というものは変わらないのですから、自分の発声の中で、イタリア語あるいは中国語の発声方法をどう使って行くかを研究しないといけないと思います。

—現在は東京芸大の他には、沖縄県立芸術大学で教えておられますが、なぜ沖縄に。

高 50歳になってから沖縄に行くことになりました。私の恩師である渡邊高之助・東京芸大名誉教授が音楽学部長のとき、沖縄へ来ないかと声がかかったんです。平成7年から11年までは、私も学部長をやりました。

—今年は何かと注目される沖縄ですが、沖縄についてのご感想はいかがですか。

高 沖縄に行くと落ち着きますね。感じが中国の福建省や台湾と似ているんです。沖縄芸大では10年前から、沖縄の伝統芸術の継承と新たな芸術の創造に取り組んでいます。

—最後に今後の抱負をお聞きします。

高 これからもイタリア近代の作品を積極的に取り上げる一方、人材育成に力を入れたいと思っています。もともと神戸の出身ですから、神戸でそういう機会があれば喜んで協力させていただきます。

—神戸にもオペラ・ハウスが欲しいところですね。今日は有難うございました。

（文責・佐井）

T·O·R E·V·E·N·T G·U·I·D·E

ジャズにクラフト…イベント盛りだくさん。秋、エキゾチックなトアロードに夢中！

トアロード・クラフトアートフェア2000

トアロード地区の3商店街のメンバーを中心に今年で4回目。単なる陶器市ではなく、各分野のアーティストたちが展示・販売する作品群はとにかく質が高く、でも、お値段は良心的なのが魅力。ますますパワーアップしたパフォーマンスやセミナーなどイベントにも期待大！

いろんなロボットがいっぱい

●と　き　10月7日(土) 10時〜18時(予定)・8日(日) 10時〜17時
●ところ　トアロード一帯

★ クラフトの展示・販売
トアロード沿いに50棟ものテントが並び、陶器、ガラス器、パッチワーク、木工芸、かご、アクセサリー、布小物など、あらゆるクラフト作品が展示・販売される。作品を手に取ってみたり、アーティストと話をしたり…普段はなかなかできない体験。手づくりの魅力を実感しよう！
★ クラフトアートセミナー（無料）
子どもたちを対象に小物づくりを体験(フィンランドの手織・吹きガラス)
★ まちかどギャラリー
出展者の作品がトアロード、元町地区の各店舗のショーウィンドウを飾る。展示期間／9月22日〜10月5日
★ ヘア・ファッションパフォーマンス
トアロード周辺の美容師さんが集う「神戸ヘアクラフトマンクラブ」による、来場者参加型パフォーマンス。プロの技に感激！
★ まちかど音楽祭・似顔絵コーナー・スタンプラリーほか

■お問い合わせ：トアロード・クラフトアートフェア実行委員会事務局（トアロード中央商店街振興組合内）☎078-332-0139
（ホームページ）http：//www.portnet.ne.jp/˜torcraft/

KOBE JAZZ STREET 2000
第19回神戸ジャズストリート

神戸の街中、あらゆる場所がジャズ会場に。今年は、ジャズの歴史に功績を残した2人のジャズメン、ルイ・アームストロングとジョージ・ルイスの生誕100年を記念したプログラム。内外の一流ジャズメンを駆使した神戸ジャズストリートならではの企画。秋の一日、「ジャズの街神戸」の底知れぬ魅力にどっぷりつかってみたい！

●と　き　10月7日（土）・8日（日）いずれも12時〜17時
●ところ　三宮・北野町、トアロード界隈

＊入場券代わりの「ワッペン」で演奏会場がフリーパス！
1日券／¥4,600（前売り¥4,000）
両日券／¥8,500（前売り¥7,400）

■ お問い合わせ：神戸ジャズストリート実行委員会
☎078-232-3211
（ホームページ）http://www.warp.or.jp/kobeccpf/jazzstreet/

★前夜祭JAZZ NIGHT SPECIAL

●と　き　10月6日（金）19時〜22時
●ところ　新神戸オリエンタルホテル　10階（真珠の間）
●会　費　¥15,000（ジャズストリート1日券付）

■予約・お問い合わせ
新神戸オリエンタルホテル　神戸ジャズストリート前夜祭係
☎078-291-1121

神戸グローバルチャリティーフェスティバル

世界の子供たちの教育基金援助と国際交流促進のためのお祭をテーマに関西一円の国際ボランティアグループが集合する。タイ・インド・マレーシアなど各国のフードブースや、国際色豊かなのみの市は掘り出し物があるかも（両日とも）。ディスコパーティでは普段は入れない神戸クラブのボールルームにも入れちゃう！ 外国人と交流したいと思う人はぜひ遊びに行こう！

●と　き　10月21日（土）・22日（日）いずれも10時〜17時
●ところ　神戸クラブ

21日（土）19：00〜　ディスコパーティ
22日（日）ビンゴゲーム、サンバパレード他

←各国の子供たちのパレード
↓チャリティーバザー（のみの市）

■お問い合わせ先
神戸グローバルチャリティーフスティバル実行委員会
☎078-801-3231

連載 7

ミステリーグルメ 神戸篇

ONE DAY LILY

—主を失った豪邸は—

ウドノ葉生子

「ところで、ジュリアン。かいつまんで話してみてよ」

俊充の死に至るまでの経緯を話すが、先ほどまで和やかに談笑していた俊充の笑顔が急に思い出され胸が痛くなってくる。

「自分をそんなに責めるなよ。運命なんだ」

「一言もない…」

「犯人をあげるのが仏さんに対する供養だぜ」

「そうだなぁ」

「ジュリアンらしくない」

衆人環視の前での見事な殺人。

俊充夫妻のあたりでさりげなくガードしていたのに僕の一瞬のスキを衝いた犯人。さて、誰なんだ。

田代刑事が作った参考人リストによるコバの事情聴取が始まった。

最初の参考人は飲み物を運んでいた君子である。

コバ「君はどこにいたの」

君子「キッチンにいました」

コバ「ご主人はいつもどんなお酒を飲まれていたの」

君子「フランスワインがお好きで、今夜もいつもと同じように私がホールの方へ持って行きました」

コバ「注いだのも君？」

君子「いいえ、今日はご家族、ご親戚の方がたくさん来ていらっしゃったので、お任せしました」

コバ「お酒は強い方なの？」

君子「強いというより赤ワインがお好きで、いつもほぼ1本近く召し上がります。今日はおめでたい日なのでもう少し多めに召し上がったんじゃないでしょうか」

コバ「君は何年前からここにいるの」

君子「もう10年になります」

コバ「長いねえ。ご夫婦に対して何か不満はなかったの？ どんなことでもいいんだよ」

君子「ハッキリ言って、不満はありません。感謝こそすれ、そんな気持ちになったこともありません。奥様にもよく可愛がっていただいて…。（主人の死が現実的になったのか、だんだんと涙声でつまってくる）誰がご主人を殺したんですか。ご夫婦仲もとても良く夫婦喧嘩なんて見たこともありません」

コバ「じゃあ、家族関係はどうだったの。皆、うま

くいってたの」

君子「こう言っては失礼ですが、個性的な方ばかりなので、しょっちゅう兄弟喧嘩はなさってましたが。でも、こんなひどいことをされる方はいません」

コバ「わかりました。また、いろいろと訊きたいので今日はこれで」

　ショックのせいか君子は魂が抜けたようで足取りがおぼつかない。大丈夫かなあ。それでも彼女は2階の夫人の寝室に向かっているから一安心である。乾いた目線で見送るコバ。ふっと「大丈夫かな」とつぶやく。誰を指しているかお互いに頷きあう。

「大丈夫だろう…多分ね」

「鑑識の話では、やはり毒物はシアン化ナトリウムカリウムだとさ」

「青酸カリか」

「たちの悪いやつだぜ」吐き捨てるコバ。

「グラスに付着していても無色無味無臭だからなあ…。しかしどこで犯人は仕込んだのだろう」

「グラス類を運んだのは君子だが、そのあと犯人が問題のグラスにどのように付着させたのか…。しかもこんな大勢の中で」

「といっても肝心のグラスにはその痕跡もない」

「その通り」

「全員の手をチェックしても犯人はすでに水で洗い流している」

「まず、家族の尋問といくか」とコバ。

「そうだなあ」

　ふたり、何か釈然としない。

…………

コバ「義充さん、あなた、どこにいました？」

義充「しかし、こんな時に一番に呼ばれるのはもっとも名誉なことと（ニヤリと唇を歪める）思いながらお答えしますがね。血のつながりのない義父だといって殺すほど冷血な気持ちはありませんよ。そういうお考えなら全世界の養子が義父を殺すんですかねえ。それに、僕にとってこんな割の合わない話はない」

コバ「（義充の表情を凝視しながら）まあ、人によりけりじゃないですか。義充さん。あなたも立派な会社の長だ、こんな子供じみた台詞は勘弁してくださいよ」

義充「ええ、確かにいました。そばに。ただ強欲な親戚連中も同じ場にいましたからね」

コバ「そりゃそうです。今夜いらっしゃっている全員の方にお訊きするつもりです。皆さんにご協力してもらわなければ早く解決できないんですよ。ところで父上がワインを飲まれている時、あなたはその前後をご存知ですね」

義充「義父の顔ばかり見てたわけじゃないですからね。たしか、その時、僕は叔父貴の林次郎とビジネスの話をしてましたよ。だから、義父の倒れた音とどなたかの叫び声で気がついたぐらいで」

コバ「その林さんとどんな話をしてられました？」

義充「まあ、ビジネスといっても他愛ない話ですよ。この頃の株の乱高下について…、かな」

コバ「なるほど。じゃあ、次に福充さんといきましょうか」

義充「呼んできましょう」

コバ「お願いします」

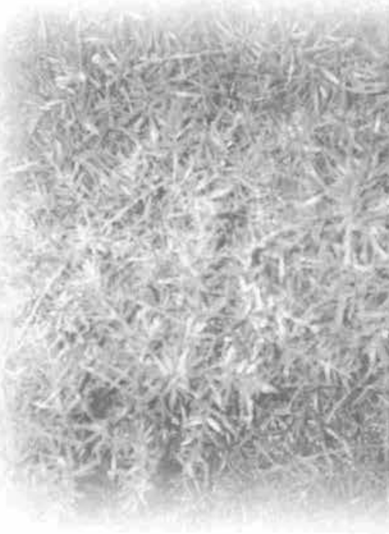
…………

コバ「福充さんは義充さんとうまくいってないのですか」

福充「うまくいかないのがフツーでしょ」

コバ「正直ですなあ」

福充「彼は僕と違ってお金儲けはうまいですよ。た



だね、父の遺言状、毎年恒例で書き換えるのですが、今年の元旦の遺言状には彼だけ然るべき財産が何も贈与されていなくて僕たちもずいぶんびっくりしましたよ。彼もそれで、ずいぶん憤慨して荒れ狂っていたと君子から聞きましたが」

コバ「なぜ彼は除外されたんですか」

福充「ウーム。教えてさしあげたいところですが、僕にもわかりません」

コバ「そうですか。その遺言状はどこにあるんですか」

福充「たぶん、うちの弁護士が1通、父の金庫に1通だと思います」

コバ「なるほど。では、その弁護士に連絡をとっていただいて、ぜひその遺言状を拝見させてください」

福充「わかりました。さっそく、手配しましょう」

コバ「では、波留菜さんをお願いします」

コバ「ジュリアンも激賞していましたが、さすがにお美しい。女優さんみたいだ」

波留菜「フフ…。でも、この頃の女優さんって、それぞれですよ」

コバ「そりゃあ、そうだ。昔は女優さんといえば美女というのが定説だったんですがね。ところで、父上の事件の時、あなたもその場にいらしたんですよね」

波留菜「ええ。姪っ子たちとファッションの話を。でも誰がこんなひどいことをしたんでしょう…。父が可哀想。今でも何がどうなっているのか頭の中が真っ白で…。ごめんなさい、そういうことです」

コバ「父上のグラスから毒物が検出されたのですが、何かお心当たりはありませんか」

波留菜「あらっ。福充兄さんの趣味も毒物研究。皮肉な偶然ね。インターネットでマニアの人とさかんに交信しているみたいだからこの手の知識は深いみたい。いえ、兄が父を殺すほどの心当たりもないからこういうことが言えるんだけど…」

コバ「なるほど。毒物マニアか。変わった趣味ですね。ところであなたは父上に対してどうなんです」

波留菜「(艶然と微笑して) あるわけないでしょ。私は今の暮らしで充分なの。残念ながら何もなし。欲のない女なの」

「コバさん、ちょっといい?」と、僕。

目線で頷くコバ。

「波留菜さん、ボーイフレンドのことで父上に叱責されたことがありますよね」

「誰がそんなことを言ったのかしら。根も葉もないとは言わないけど、娘を思う気持ちじゃないの」

「波留菜さん。家を出たのは父上との衝突が原因でしょ」

「そんな…。ただ、私は両親のような立派な暮らし方がいやなの」

「どういう意味です?」

「そういうことよ。私は自分に素直に生きてゆく、自由に男を愛してゆく。それでいいの。自然体でしょ。父や母のようにはいかないわ。愛は忍耐だなんていや。あなたは? ジュリアン」

「そりゃあ、僕も同感ですが、しかし、父上との間に大きな経済的トラブルがあったんでしょ。僕の情報では美術商の彼のために非常に肩入れなさっている」

「だからって殺さないわよ。あなたって失礼ね。私は誇りをもって生きてるわ。今はやりの叶姉妹じゃあるまいし。もういいでしょ。母が心配だから見てきます」

僕達は波留菜の怒りをたっぷり頂戴したようだ。

（つづく）

ウドノ葉生子

作家、TVイベントプロデューサーなど多様に活躍中。月刊神戸っ子に「松涵家ものがたり」連載。若者向け著書「音声多重面白構造」(三水社)で人気を集める。最近作「あぁ、万事塞翁がお・ん・な」(文園社)では神戸花隈の花柳界の歴史を綴る。ラジオ日本「ウドノヨーコのざっくバラエティ」のパーソナリティを阪神・淡路大震災まで務める。

神戸ファッション市民大学OBによるグループ　神戸のファッション都市化をめざす

K.F.S.NEWS　210

コウベ　ファッション　ソサエティ

事務局／神戸市中央区下山手通3－1－18
ツインズトアビル４Ｆ　月刊神戸っ子内
TEL. 078－331－2246
FAX. 078－331－2795

KFSだより　楽しい集いをめざして

歴代会長、執行部及び会員の皆様で確かな足跡を残され、石原前会長のもとで、25周年事業をあの様ないいムードのパーティで終わり、ＫＦＳの当初目標は達成され、一時代が過ぎたのではと考えます。

今後新たな活動目標を見出すため、高齢化した会員の活性化のため、親睦を主体とした楽しくリフレッシュできるマンスリーを企画し、情報交換の場として、皆さんに参加いただければばと考えております。インターネットで人は幅広くつながるようですが、力にならないでしょう。集会などの人の集まるところに活力が出ると思います。

９月８日の理事会には、一般の方々の参加もお待ちしておりますので、ぜひお気軽にお出かけください。

新理事

加納 柿本 斎藤 中村 村岡 石原
大内 小関 小泉 田中 松田 若林
（五十音順）

監査役

柿本 米田（博）

平成12年度行事予定

9月8日
垂水ファクトリーアウトレット見学
18時30分JR垂水駅西口集合
JR垂水駅より徒歩9分
夕食会 例：シーフードマルシェ

10月20日
マンスリー第2回神戸ハイカラ文化シリーズ
講師　田辺眞人先生
場所　ハーバーランドレストラン
　　　　ブレラ・テーブル

連絡先／「COL」加納代表理事
TEL.078-331-2020
FAX.078-332-2510

SAMOTO CLINIC

佐本産科

ママといっしょに

あかちゃん：**鹿田　怜央奈**ちゃん
（平成12年1月28日生まれ）
マ　　マ：**田実子** さん
「元気でラブリー♡な女の子に育ってネ！」

★佐本産科・婦人科★
佐本　学
神戸市兵庫区中道通4-1-15
TEL:078－575－1024（病室TEL:078－577－7034）
市バス上沢４停南スグ
●駐車場完備●

竹久夢二

「四つの恋のものがたり」〈その十六〉

関東大震災・挫折・スケッチ取材

中右　瑛

大正十二年九月一日正午、未曾有の大地震が大都会・東京を襲った。世にいう関東大震災である。

地震による倒壊被害よりも、その直後の出火による延焼、人的被害が甚大であった。各所で火災が発生し、南風にあおられて下町を中心に燃えひろがり、多くの人たちが焼死、大都会は一夜にして灰燼、地獄と化した。

焼死を含む死者九万、負傷者十万、行方不明者四万三千人余り、前代未聞の人的被害をもたらした。

午前十一時五十八分、最初の大ゆれがはじまった。そのとき夢二は、渋谷宇田川町の自宅にいた。お葉と出掛ける寸前のことで、地震に驚き、あわてた夢二は飛び出そうとして玄関先で転んだ。膝を強く打った。しかし、家屋については余り大きな被害はなかった。渋谷など山ノ手の被害は案外少なく、ほとんどが下町に集中した。

夢二の震災被害は別にあった。

友人・恩地孝四郎ら数名と計画し、実現寸前だった出版事業を主体とした「どんたく図案社」の挫折であった。商業美術の一般大衆化をめざし、本の出版、新案デザインなどを引き受ける企業社で、夢二が中心となって装幀、デザインの技術と経験を生かした新案の未来産業で、それが「どんたく図案社」だった。

震災前の五月、帝国ホテルで「どんたく図案社」発足の盛大な披露会が催された。顧問に予定していた岡田三郎助、藤島武二ら美術界のトップや印刷会社、出版取扱社の店主たちが招待された。いよいよ本格始動という矢先、頼みの綱だった月刊誌『図案と印刷』発行予定の本所緑町の印刷所が震災で倒壊し、資本提供者の印刷会社の一家が死亡したことにより印刷所の再興が不能となった。「どんたく図案社」は遂に断念せざるを得なくなったのである。

「何もかも根こそぎ焼け失せてくれればよかったのに、俺は生き残った」。

失望・落胆。夢二の偽らざる心境であった。

夢二は地震の翌日から被災地のスケッチ取材に出掛けた。新聞社からの依頼であった。

朝早くから夜おそくまで、浅草、築地、本郷、日本橋、神田駿河台など、夢二は思い出の街から取材に走った。

浅草名物十二階の「陵雲閣」は八階からくずれ落ちた。

夢二の震災スケッチ（左上とも）

浅草の十二階より見渡せば
　御代は聖代　文明開化

「山へよする」より

夢二がタマキや子供たちと登った「陵雲閣」のあの頃を、夢二は懐かしく思い出したことであろう。

映画演劇のメッカ・浅草六区や見世物小屋があった浅草奥山遊園地、江戸時代からつづく夜の遊び場・吉原遊郭などの歓楽街の面影は完全に消え失せていた。

浅草のメリイゴーランドこそ　悲しけれ
　親と子が乗りて　やまずめぐるも

「山へよする」より

タマキ去り不二彦らと遊んだときの夢二の侘しき心情、いままた甦る。

神田ニコライ堂あたりもすっかり変貌し、美しいはずのロマネスクのドーム（円頂屋根）も悲しく見えた。神田駿河町周辺は、夢二にとってはかつての恋の散歩道、特に、ニコライ堂は思い出深い彦乃との出逢い、逢い引きの場所だった。

ニコライの　ホールに入りて　相擁き
　サンタ・マリアを　拝みにけり

「山へよする」より

彦乃との逢い引きのシーンを詠じたもので、二人の生々しい抱擁シーンが彷彿とされる。「港屋」は人の出入りが激しく、人目につきやすい。ニコライ堂は絶好の忍びの場所だった。

夢二は焦土と化した瓦礫の街、無惨な光景を、感慨を込めてスケッチしたのだった。

こうした東京の惨状を、ペン画に文章を添え解説し『都新聞・東京災難画信』として九月十四日〜十月四日まで二十一回連載したのであった。

震災でうちひしがれる人々の姿。早くも復旧にたずさわる人たちの寸描。焼跡にポツンと立つ「たずね人」の札。避難所の母と子などなど災害地の人間模様をこまやかに伝えている。

朝鮮人暴動のデマ、反乱分子の蜂起など、流言飛語の飛び交うなか、朝鮮人や社会主義者への自警団員たちの暴行、虐殺など悲しい出来ごとに、夢二は嘆き憂い、人種差別、思想弾圧を加えようとする警視庁に怒りを向けた。

夢二のスケッチ文には、暖かい共感、同情心、あるいは冷静な社会批判、反戦思想など、夢二のイデオロギー、理念が表現され、人々の心を打ったのだった。

■中右　瑛（なかう・えい）
抽象画家。浮世絵エッセイスト
1934年生まれ、神戸市在住
［受賞歴］行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵蒐集研究の功績により浮世絵内山賞受賞。半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。
現在　行動美術協会会員　国際浮世絵学会常任理事。著書に、抽象画集「シエリト・リンド／ミラクルブルーの世界」「浮世絵ミステリー巷談」「写楽は18才だった！」「忠臣蔵浮世絵」「豆本・夢二黒猫綺譚」がある

ZOOM IN ZOO

NO.400

実録 ゾウと歩んだ動物園史
<ヒグマのママ>

亀井一成の
ズーム イン ズー

15頭の子グマのお母さん「ママ」。35才になり、余生をひとりで過ごした

「おっちゃん、動物も年老いたらシワいくの…」

写生会に来た中学生の男子生徒から尋ねられ、胸を熱くしたこと忘れられません。

王子動物園が開園されたのは1951年3月20日。実はその1年前、1950年にゾウの諏訪子が、県庁北にあった旧諏訪山動物園にやってきました。

いや、その諏訪子よりも早く、神戸博会場に、ヒグマの子が2頭いました。ボクは19才、ゾウの飼育をしながら、この子グマを育てたのです。

「おいカメイ、クマには、ブタ用の煮たエサを食べさせろ！」

松村豊吉副園長のでかい声。

今ではクマ用ソーセージや食パン、サツマイモ、果物などをやっていますが、敗戦後の当時、魚のアラやウナギの頭に野菜の切り落としや残飯をトロトロ5時間煮込み、麸を入れてダンゴ状にしてやる、これが伝統のクマ用チャンコ煮でした。エサを煮込んでいる間に、裏山のドライブウェイ辺りでゾウの摩耶子と諏訪子2頭のエサ、ササやススキをリヤカー山盛りに刈り取ってきたことが忘れられません。

おかげで2頭のヒグマ、オス・メス共に無事成育、1951年3月20日、現王子動物園が開園しましたが、このヒグマとニホングマ、クロヒョウが唯一の猛獣でした。

ヒグマの子15頭を育てた 愛称ママ号

ヒグマのオスは大食いでメスに弱いことから「ポパイ」、メスは子グマにやさしくてとても良妻の「ママ」でした。

ヒグマは毎年最も寒い1月の中旬に、暗くした部屋で小さな子を産み、まさにパンダ座りで乳を飲ませる姿はなんともかわいく、

「まあ！可愛い！」

毎日、多くの子どもたちに抱いてもらったりで大人気でした。

しかし悲しいことに、大きくなると引き取り手が少なくなるので、咬むことを知らない小さな頃に、動物交換として次々と14回も子グマを転出させましたが、ボクは各地の動物園に送る日が大嫌いでした。

大好物のイモやパンでだまして子グマを分離するとき、

ギャオ！ギャオ！

クエーン、クエーン

箱に入れられた子グマを返せと泣き叫ぶ母グマの姿、ボクも泣いていました。

そして35才にもなった母グマは、オスのポパイにも先立たれ、たったひとり。足腰が弱まり、眼ヤニの止まることがありません。

もう、自力で外に出ることができないママを、陽だまりによく出してやったのです。

「母キトク、すぐ帰れ！」人間なら母に集まり手を合わせるでしょう。

しかし動物たちの母には誰も帰ってくることはありません。淋しく、ひとり死を迎えるのです。

天敵のいない動物園では長寿

いくら強くても、トラやライオンは25年も生きることはほとんどありません。草食のキリンやシマウマも、やはり25年以上生きてはくれません。それでも野生より動物園の方が長寿なのは、天敵がいないからです。

自然界では、少しのケガから発熱、敏速性がにぶり、身を危うくします。老化もまた動きを遅くします。つまり、獲物として襲われるでしょう。

動物園では、じゅうぶんなエサと治療もできることから、どの動物も平均的に長生きしてくれるのです。

老ゾウの訃報相次ぐ

しかし、開園50年という歳月はやはり老化との戦いです。

悲しいですが、日本で55才をこえた老ゾウの訃報が、今年になっても相次ぎました。

「えっ、あのジャンボーが…」

つい1か月前、東京上野動物園に、神戸の諏訪子と同い年のジャンボーに面会したばかり。２０００年6月28日死亡、57才でした。

それより先、5月19日、大阪天王寺動物園のユリコ（56才）も老衰死したのです。

いま、日本の動物園で一番長寿なのは、かつてボクを背に乗せて諏訪山のドライブウェイを歩いた、諏訪子（57才）になってしまいました。

諏訪子は両前足のツメが曲がり、あまり外に出ません。朝夕の治療と栄養管理に、ベテラン飼育技師があたっています。亜熱帯性のゾウにとっては、夏は体調を整えるチャンスです。思い切り食べて、寒い冬に備えるのや！

ボクの姿に顔がほころび、サインを送ってくれる諏訪子とは、旧諏訪山動物園からの生き証人なのです。

肺結核で死んだ摩耶子よりも長寿の諏訪子。小さなダニを身体のシワにつけてきたので、ピンセットで毎日とってやったこと、寄生虫で周期性の下痢で困らせたこと、まだまだ誰も知らない動物園史を歩んできたボクと諏訪子なのです。

がんばれ諏訪子、ありがとう諏訪子。

↑ 昭和31年、生後3ヵ月の子グマと見守る父「ポパイ」

↑ 日本一長寿のゾウ・諏訪子（57才）と筆者

連載400回記念！
亀井一成先生が撮影した
写真を5名様にさしあげます
（亀井さんの直筆サイン入り！）

ご希望の方は、ハガキかFAXに住所・氏名・このページの感想、または亀井先生へのメッセージを書いて下記までお送り下さい。

〒650-0011 神戸市中央区下山手通3-1-18
ツインズトアビル4階
月刊神戸っ子「ＺＯＯ」係 ＦＡＸ078-331-2795
（9月30日消印有効）

有馬歳時記

シリーズ――人と出逢える街・有馬〈10〉

「山ん中におるとね、不思議なことばっかりありました」

「滝の茶屋」　藤井　栄美子さん

夏でもおばあちゃんのおでんは人気。使い込まれたナベでじっくり煮込まれている

名勝の地・鼓ヶ滝。ます池を過ぎ、鼓橋をわたり、滝道を登ると涼しげな木立のあいだから流れ落ちる上品な滝が見えてくる。滝のふもとの「滝の茶屋」の名物おばあちゃん、藤井栄美子さんを訪ねた。

夏の間、涼を求めて多くの観光客が鼓ヶ滝を訪れた。坂道とも山道ともつかない滝道を登り、ようやく滝が見える。「今でこそ〝滝の藤井のおばあちゃん〟といったら有名やけど、むかしは買い物しに有馬の町に下りていくと『あんたどこの人？』と聞かれました。新聞配達も来なかった。それくらい山の中だったんですよ」

明治から続く「滝の茶屋」には、4代目に女の子が生まれなかったため、栄美子さんが養女にきた。接客業は女性の仕事だという時代である。「つらいこともあったけど、帰るところがないからがんばれたんやと思います」

20歳になるかならないころに店に立った栄美子さん。同年代の女の子たちは、みんなお化粧をしたりパーマをかけたりしていたが、栄美子さんはおしゃれをするひまもなかったという。

露天風呂とご昼食
ひさご弁当
兵衛
向陽閣
TEL（078）904－0501（代）

有馬温泉月光園
GEKKOEN
鴻朧館
KOROKAN
TEL（078）903－2255
姉妹旅館　游月山荘
TEL（078）904－0366

テニスでいい汗
いい湯にとっぷり味に集う
ARIMA
SUNNY SIDE UP
TENNIS CLUB
TEL（078）903－1024
摂津有馬
御所坊
TEL（078）904－0551

静寂さにつつまれた
くつろぎの宿
国際観光旅館
陵楓閣
TEL（078）904－0675
TELEX　5627－115

阪神大水害のあと、鼓ヶ滝は岩を積んで整備された。
「もうちょっと細い、高い滝にして」とおばあちゃんも工事に立ち会ったとか

「山ん中やしね。キツネやタヌキと友達でした。山ん中におったら不思議なことばっかりありました。キツネやタヌキがね、人をだますんですよ。夜歩いてたら大きな丸太が落ちててね、そこにつまずいて転んで、でも振り向いたら何もなかった、とか。雨の日、何もないのに足を取られて転んだりする。みんなキツネやタヌキのしわざです」

ほんとですか。

「それから花をとりに山へ入った人がいた。すぐ帰るはずなのになかなか帰ってこないので家族が探しに山へいくと、すぐそばにいるのに気がつかない。おーいと呼んでいるのに聞こえないんです。これもキツネのいたずら。若い人は、そんなん嘘や嘘やって言いますけど、そりゃあずっと街にいたらね、わからないかもしれない」

栄美子さんは、今年80歳。毎朝家でおでんを煮てぜんざいのあずきを炊いて、店に入り、掃除をして水をまき、観光客を出迎える。人気のおでんは「自分で味見したことないですわ」と笑う。「このぐらいのナベならダシはこれくらい、と。ぜんざいもそう」。50年以上続けている仕事には「もう飽いたわ」と栄美子さんは笑った。今では息子さんやお嫁さんも店の仕事を手伝っている。

年齢をものともせず、てきぱきと働く栄美子さん。滝とともに、山とともに生きてきたおばあちゃんだ。キツネの話も、タヌキの話も、たぶんそう遠いむかしの話ではないのだろう。つい最近まで、彼らはすぐ近くにいた。

「紅葉が散ったら、店を閉めます」と、栄美子さん。冬が来たら、茶屋もお休みである。〈鳥羽〉

「有馬のことなら何でも知っている」おばあちゃん、藤井栄美子さん

有馬での会食・宴会は懐石料理・ステーキが楽しめるいろり亭「華籠」で!!
（昼5000円〜、夜8000円〜）
有馬温泉　政府登録国際観光旅館
銀水荘別館
兆楽（ちょうらく）
TEL（078）904−3656（代）
URL:http://nrjp.com/chyoraku/

自然の恵みを
湯けむりに伝える
政府登録国際観光旅館
古泉閣
TEL（078）904−0731

日本の伝統
数寄屋造りの館
欽山
TEL（078）904−0701
チェックイン13：00、アウト12：00
ゆっくりとお過ごしいただけます。

雅ただようくつろぎの館
中の坊瑞苑
TEL（078）904−0781
会議セミナーからご家族づれまで
有馬グランドホテル
TEL（078）904−0181

奥多摩名山のひとつ・三頭山の大滝

日本タウン誌協会共同企画

編集長おすすめの旅

西多摩名水巡礼

東京都福生市

西多摩新聞
社長 柴崎 新

「編集長おすすめの旅」は、日本タウン誌協会（事務局・月刊神戸っ子）の会員50社の各編集長が順番に執筆。

東京の奥座敷といわれる奥多摩町や檜原村を含む西多摩地域。埼玉県や山梨県と隣接し、今も東京とは思えないほど豊かな自然が残されている。湧き水も多く、水が命の銘酒やワサビなどの地場産業が盛んで、温泉も次々発掘されている。

そこで、西多摩からは「名水巡りの旅」にご案内しよう。

JR青梅線立川駅から奥多摩方面へ向って小一時間。沢井駅で下車すると、夏場でもひんやりした空気に包まれる。それもそのはず、水量豊かな多摩川がとうとうと流れ、川岸を目にまぶしいほどの緑がふちどる。その多摩川と平行した青梅街道沿いにあるのが、奥多摩名山のひとつ、高水三山から湧き出る自然水を使った銘酒「澤乃井」の製造元・小澤酒造株式会社（☎0428・78・8215）。創業は元禄15年（1702年）、300年近い歴史を誇り、年間約250万本を全国に送り出している。週日は1時間ごとに酒造りの工程を見学でき、多摩川に面した中庭で緑に包まれてしぼりたての地酒を飲むことができるので、左党たちでいつもいっぱいだ。

見学コースに従って進むと、昼なお暗い洞窟の奥に、しめ縄が張られた横井戸がライトアップされて目に飛び込んできた。驚くほど澄み透った水をたたえ、神々しいまでの雰囲気が漂う。世に言う「霊水」とはこのことと思わず納得。おいしい酒の味を左右するのは酵母の発酵だが、水の成分が発酵のよしあしを決めるといわれている。その点、ここの水はミネラル分を多く含み、硬すぎず、柔らかすぎず、ちょうどよい硬度なので、理想的に発酵できるのだそうだ。同社自慢の銘酒「梵」は、一昨年、昨年と続いて国税庁全国新酒鑑評会で金賞を受賞するなど全国的にも高い評価を受けている。この水は酒ばかりでなく、豆腐作りにも活用され、同じ敷地内には豆腐の会席料理

小澤酒造の仕込み水。茶わんがおかれ、訪れた人は自由に飲むことができ、ペットボトルに汲んで持ち帰ることもできる

上・青梅市「小澤酒造」内きき酒のバー
下・福生市「田村酒造場」敷地内・たると杉玉

店「ままごとや」があり、バスを連ねてやってくる観光客でいつも賑わっている。

　これほどおいしい水に恵まれた西多摩は、東京の中でも造り酒屋が集中し、それぞれに特徴を持った地酒を製造している。アイヌ語のプッセ（湧き水）が地名の由来といわれるほど、湧き水の多い福生市も酒作りには好適な場所。銘酒「多摩自慢」で知られる石川酒造は天保半ば創業。田村酒造場（☎042・551・0003）は文政5年（1822年）から酒造りを始めた老舗。同酒造場は現在、若い女性の杜氏も加わり、日夜酒造りに励んでいる。江戸時代の面影がそのまま残る白壁と黒板塀の迫力ある建物は東京一。採算を度外視したこだわりの銘酒「嘉泉」は、量産せず、品質重視の姿勢を貫いているため、扱っている酒屋さんは少なく、酒好きにとってなかなか口にできない「まぼろしの酒」。全国の左党たちの間では垂涎の的になっているそうだ。原料の水は、創業以来使われている井戸水。地下約10mという、他では見られない浅井戸から湧き出る奥多摩伏流水の中硬水で、ライバル他社が口をそろえて「酒造りには最高の水」と絶賛するほどの質の高さ。

　以上、奥多摩や福生以外にもおいしい酒や醤油で人気を集めている、あきる野市の野崎酒造などがある。

　このように良質の西多摩の水はワサビ栽培にも適している。奥多摩町はワサビの名産地。刺身に添える生ワサビのほか、ぴりりと辛みの効いたワサビ煎餅の材料に大半が使われている。

　ワサビ田が広がる集落・境は、奥多摩町の散策コース「奥多摩むかしみち」の奥まったところにある。傾斜地全体を青々としたワサビが葉を茂らせ、その間を縫うように透明度抜群の清流が音をたてて流れている。管の先には、さりげなくアルミのコップが置かれ、道行く人の喉を潤してくれる。各家には水道も引かれているが、生活用水として使われるのはもっぱら敷地内の湧き水。各家が自宅用のワサビ田と野菜畑を持ち、清流に浸らせたほた木でシイタケを栽培するなど、水の恵み豊かな暮らしが息づいている。

　ここからさらに奥には、個人の敷地内から湧き出る銘水「惣岳の清泉」が滾々と溢れ出て、自由に甘露を汲むことができる。わらぶき屋根の農家の縁側には梅干がざるに並べて干してあったり、昔日の面影が色濃く残り、タイムスリップトラベルを存分に楽しめる。

奥多摩町境部落のわさび田

■お問い合わせは　(株)西多摩新聞社　TEL.0425-52-3737　FAX.0425-52-3778

肉のうまみを実感「焼肉の牛太郎」

自慢の但馬牛をお試しあれ

ポーアイにある焼肉店「牛太郎」ではメニューにある肉のほとんどが但馬牛。「おいしい肉を出すようにしていると自然にそうなってしまった」とオーナーの大山さん。ヘルシーで味わい豊かなモモステーキ（1000円）や、極上ロース（1980円）、極上カルビ（1780円）などどれも口の中でとろけそうなほどで、その素材の良さを実感してしまう。ホルモン系も充実。盛り合わせやろっ骨部分のショボリのほか、その日のおすすめの珍しい部位が出ることも。タレ、辛口タレ、塩から選べる味付けもうれしい。

■焼肉の牛太郎
神戸市中央区港島中町6・2・1
神戸パークシティ1F
☎078・302・7665
11：30～14：00／17：00～22：00
木曜休

うまい！ 安い！「神戸ぶたまん屋」

鯉川筋のかわいいぶたまん屋さん。焼き豚で有名な新生公司に特別注文するという荒挽きの豚肉がたっぷり。素材のわりに1個100円の安さで、トアウエストの若者から中国料理店の奥さままで、口コミで広がったファンが多い。ご主人の林（リン）さんは台湾生まれの神戸育ち。中国料理店から、パン屋、フランス料理店の厨房に立ったこともあるとか。

「おいしい笑顔がうちの儲けです」と林さん

まだまだ残暑が厳しそう。「神戸ぶたまん屋」のかき氷のシロップはなんと果肉入り。パイン＆レモン、ナタデココなど、フルーツがふんだんに使われていて、甘さを抑えたいちごジャムにミルクをかけたいちごミルクは、そのままでもデザートになりそうなほど。自家製シロップがなくなり次第かき氷は終了（だいたい9月末まで）とのこと。

■神戸ぶたまん屋
神戸市中央区下山手通3・6・3
☎078・332・3250
10：00～20：00 不定休

北村光代さんの特別料理教室「グリーンノート」で開催

神戸レディススパのカフェ＆キッチン「グリーンノート」では、年に1～2回特別料理教室が開かれている。今回はハーブ料理の第一人者、北村光代さんの簡単手作りパスタと鰯料理の会。南イタリアのクーリアで食されるパスタ、オレキエッティは、参加者全員でセモリナ粉を生地から練ってパスタ作りやパン粉に生ニンニク、イタリアンパセリ、ケイパー、パルミジャーノチーズを混ぜあわせた鰯の重焼きに挑戦。ハーブを使ったミートソースにからめたオレキエッティとイタリア野菜のパルミジャーノサラダとともに、イタリア食文化のお話と食事を楽しんだ。

グリーンノートにはハーブティやお肌のためのセットメニュー1500円などハーブを使ったヘルシー料理がいっぱい。

多数のハーブ料理の著書がある北村光代さん

■グリーンノート
神戸市中央区下山手通2・2・10
神戸サウナビル3F
（神戸レディススパ内）
☎078・392・1051 無休

パリの今の風を…「ル・レストラン・マロニエ」オープン

セラピーランチで一世を風靡した、ハーバーランドニューオータニの緒方幾起シェフがフレンチレストランをプロデュース。神戸朝日ビル山側のラム三宮ビル2Fに「ル・レストラン・マロニエ」が7月7日にオープンした。「パリの今の風を…。そして食材はオーガニックに徹していますので、安心して食べていただけますよ」。店主の嶋村武伸さんも、同じニューオータニ出身のシェフ。確かな腕でセンシブルなフレンチが堪能できる。ランチは1500円から、ディナーのコースは3800円から。

■ル・レストラン・マロニエ
神戸市中央区三宮町2・2・1
ラム三宮ビル2F
☎078・331・5526
11：00～14：00／17：00～21：00
水曜休

嶋村さん（右）の創り出す美味なるフレンチをどうぞ

食は踊る

創作鉄板料理「やきものや・どんどん」

若柳吉金吾（邦舞家）

写真右より御主人の伊勢五朗さん、スタッフの奥野雅之さん、カウンター越しに筆者と奥様の伊勢弘恵さん

モザイクとは、ガラス、石、貝殻、タイルなどの小片を組み合わせて図案化した装飾物だということです。色々な人達が集まる場所として、ハーバーランドに「モザイク」ができたのは、震災の前でした。

震災のあと、神戸の老舗といわれる料理屋さん、レストラン、喫茶店、バーなどのお店がこぞって「モザイク」のなかに移ってこられました。

それまで、三宮で立ち寄っていたお好み焼き屋さんがなくなってしまい、困っていたところ偶然「モザイク」で「やきものや・どんどん」を知ることになりました。

お店の前に小川が流れており、その先に海が広がるという、恵まれた環境のなかで、お食事ができるということが嬉しく、度々たずねることになりました。

「どんどん」は、ただ単なるお好み焼きではなく、ご主人の創作の品々があります。私が一番好きなのはうす焼きです。お醤油味で食べるお好み焼きで、ネギ、大葉、木の芽の三種類で、冬場などはカキと菊菜のうす焼きが加わります。冷たいビールでいただくうす焼きの味は何とも美味なものです。

写真左の「みやこそば」(900円) は欧風料理「グリルみやこ」のママさんのアイデアによるもの。右はネギがたっぷりのうす焼き (650円)

名物の、どんどん焼きは、中にチーズが入っていて特製ソースのうえにキウイフルーツのソースがかけてあり、若い方向きで好まれています。

そば焼きには、三宮の丸八製麺のそばが丹念に焼かれます。

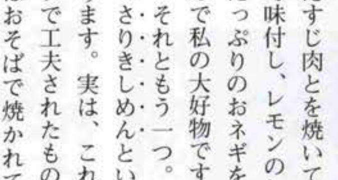
みやこそばは、日本そばと煮こんだすじ肉とを焼いてウスターソースで味付し、レモンのしぼり汁をかけ、たっぷりのおネギを乗せた和風のもので私の大好物です。

それともう一つ。メニューに、あっさりきしめんという焼きものがあります。実は、これは私のアイディアで工夫されたものなのです。最初はおそばで焼かれていたのですが、話好きの私がある時ご主人に「これ、ひょっとしてきしめんにした方がおいしいかもね」と申しましたら、早速きしめんでつくられました。これが好評だったのです。ペペロンチーノのことを思いついて提案した私にとって、とても嬉しいことでした。

このほか鉄板焼きも本格的で、ご主人手造りの和食器で出され、その食器がほどよい温かさを保ってくれます。

謙虚なお人柄のご主人と、若くて美しい奥様、そして右腕の奥野君との名トリオが素敵ですが、ただ一つ、いつ行ってもたくさんの人達で、待たされることが…。でもそれも考え方で、移りゆく景色を見ながら、水の音を聞き、テラスの風に吹かれてのひとときも、また風情があるものでございます。

■創作鉄板料理「やきものや・どんどん」
神戸市中央区東川崎町1-6-1
神戸ハーバーランド・モザイク1Ｆ
☎078-360-0125
11：30～14：30　17：00～21：30
（オーダーストップ）月不定休
Ａコース（魚介の鉄板焼）3,000円
Ｂコース（ヘレステーキの鉄板焼）4,200円



A
RT

神戸市立小磯記念美術館　特別展

田村孝之介と神戸

チケットプレゼント

洋画家・田村孝之介（1903—86）は、神戸に転居後、小磯良平らと交友を深めるかたわら、自宅内に洋画研究所を開設。児玉幸雄・西村功・中西勝・鴨居玲など優れた画家たちが巣立っていった。田村の神戸在住期の作品を中心とした約80点を、後進たちの作品約20点とあわせて紹介。

「海をたたえる」1959年　神戸市蔵

9/23（土・祝）～12/3（日）　10：00～17：00　月曜休
神戸市立小磯記念美術館（六甲ライナー「アイランド北口」駅下車すぐ）
☎078-857-5880　一般200円　大高生150円　中小生100円
●ロビーコンサートのおしらせ
10/1（日）・11/5（日）14：00～15：30
場所/小磯記念美術館ロビー　出演/神戸市室内合奏団
曲目/弦楽四重奏曲（ハイドン・モーツァルト他）　無料（ただし美術館入館料が必要）

A
RT

小出楢重と谷崎潤一郎 —「蓼喰ふ蟲」の世界 —

「挿絵は小説の美しき伴奏であればいい」とした小出楢重のさし絵は、谷崎潤一郎の作品に一層の魅力を与えた。芦屋市立美術博物館の開館10周年記念特別展「小出楢重の素描」（9/9～10/22）にあわせ、芦屋市谷崎潤一郎記念館での本展は、小出と谷崎の交流を織りまぜながら、「蓼喰ふ蟲」が生まれた背景とその作品世界を、小出のさし絵をはじめ、原稿、書簡、書籍などを通して紹介する。

「蓼喰ふ蟲」挿絵原画

9/23（土）～10/22（日）10：00～17：00　月曜休
芦屋市谷崎潤一郎記念館　展示室（阪神「芦屋」駅南東15分　芦屋市立美術博物館向かい）
☎0797-23-5852　一般300円　大高生200円
（美術博物館・谷崎潤一郎記念館共通チケット/一般600円　大高生450円）

B
ALLET

平成12年度文化庁芸術祭参加

貞松・浜田バレエ団特別公演「創作リサイタル12」

「古典の名作から学び、クラシック作品を超えて」ー創立35周年を迎えた貞松・浜田バレエ団が贈る創作バレエリサイタルは、団員の作品６点のほかに、上甲裕久、加藤きよ子らゲストの新作バレエを含む新作特別公演。大成功をおさめた昨年の「創作リサイタル11」から1年、彼らの意欲作に期待したい。芸術監督は貞松融、浜田蓉子。

創作リサイタル11
「カルミナ・ブラーナ」より

10/7（土）　18：00開演
新神戸オリエンタル劇場（新幹線「新神戸」駅、地下鉄「新神戸」駅前）
S席4500円　A席3500円（当日券500円増・全席指定）
貞松・浜田バレエ団　☎078-861-2609
劇場チケットセンター☎078-291-9999　チケットぴあ、ローソンチケットでも発売中

M
USIC

YUKO KAMAHORA SOPRANO RECITAL

「卓越した歌唱力のみならず、舞台上における自由自在なのびやかさ」「役者としての存在感と温かさ」を高く評価されているソプラノ歌手の釜洞祐子。今回のリサイタルの特別出演は国内外で活躍するピアニスト・近藤嘉宏。２人の薫り高い芸術性とテクニックが醸し出す最高の響きをお楽しみに。指揮は本名徹次、大阪シンフォニカー、ステージコーディネーターに小野瀬晃一。

コロラトゥーラソプラノ・釜洞祐子

11/3（金・祝）　14：00　開場14：30開演
神戸国際会館　こくさいホール（JR「三ノ宮」駅南1分）
S席7000円　A席6000円　B席4000円　C席3000円
神戸国際会館プレイガイド　☎078-230-3300
服部メガネ店　☎078-331-1123　チケットぴあ、ローソンチケットでも発売中

ART

海文堂ギャラリークロージングトーク

「海文堂ギャラリーとは何だったのか」

元町商店街の書店「海文堂」2階の海文堂ギャラリーは、21年間、神戸の文化発信源として人々に親しまれてきたが、7月の展覧会をもって閉鎖された。ギャラリーでは、9／16までさようなら感謝セールを行い、9／17にはクロージングトークを開催。経過報告は島田誠氏、ゲストに画家・木下晋、美術評論家・岡泰正、美術ジャーナリスト・山本忠勝。参加費無料。

9／17（日） 14：00〜16：30
海文堂ギャラリー
☎078-331-2467

元町３丁目「海文堂ギャラリー」

MUSIC ～9月～

★チキンジョージ　☎078･392･0146
8（金）大江千里、9（土）BEGIN、12（火）13（水）奥田民生、14（木）15（金）JAYWALK、16（土）17（日）the pillows、20（水）21（木）char、23（土）Sparks GoGo／フラワーカンパニーズ／ジャイアントステップ、24（日）25（月）東京スカパラダイスオーケストラ、26（火）石田長生、29（金）30（土）THE SQUARE

★ピアジュリアン　☎078･391･8081
4（月）小笠原薫（vn）清水道代（p）、5（火）寺内智子（sp）袖野亜希子（p）、6（水）西本淳（sax）濱長良美（p）、7（木）田中希美（sp）近藤美香（p）、8（金）鈴木華重子（p）、9（土）市坪綾子（vn）田中婧子（p）、10（日）高橋智子（p）、11（月）小笠原薫（vn）清水道代（p）、12（火）三次玲子（vn）山本朋子（hp）、13（水）折川真理（vn）中元智子（p）、14（木）近藤美香（p）、15（金）高山智津子（sp）辻本恵子（p）、16（土）藤渓優子（p）、17（日）辻本恵子（p）、18（月）金澤佳代子（p）、19（火）大迫さゆり（p）大迫めぐみ（p）、20（水）西本淳（sax）濱長良美（p）、21（木）高橋乗子（vc）近藤美香（p）、22（金）鈴木華重子（p）、23（土）原公一郎（g）、24（日）鈴木恵美（sax）濱長良美（p）、25（月）岩国晃子（cl）佐藤裕美子（p）、26（火）日野俊介・武村美穂子（トリオ）、27（水）宮崎万里（vn）濱長良美（p）、28（木）井原秀人（バリトン）藤江圭子（p）、29（金）中井亮子（p）、30（土）藤渓優子（p）

★ Holly's　☎078･251･5147
8（金）畑山紀美代（vo）辻佳孝（p）奈良原裕一（b）中島要（dr）、9（土）藤村麻紀（vo）大内玲子（p）小出恭生（b）川上隆幸（dr）、11（月）奥田尚子（vo）タカ（p）吉岡泰祐（b）、12（火）荻田和貴男（g）たくみゆか（p）奈良原裕一（b）、13（水）T-bornオーケストラ、14（木）新田佳子（vo）たくみゆか（p）紫田浩子（fl）、15（金）長井美恵子（p）西川悟志（b）、16（土）Eve Robin（尺八）Ron Mason（g）Dave Boyle（tb）小出恭生（b）松井道郎（p）、18（月）濱岡郁子（vo）小泉ゆうこ（p）後藤信夫（dr）、20（水）たなかりか（vo）植田貴代（p）、21（木）宮下博行（p）西垣昌也（b）高野正明（dr）、22（金）原田耕自（p）森本良平（b）後藤信夫（dr）、23（土）山口エミ（vo）、24（日）SOLTY DOGS（13：00〜）25（月）タカ（p）吉岡泰祐（b）、26（火）まさ木まや（vo）米森英毅（p）、27（水）MID-NIGHT-EXPRESS、28（木）原田耕自（p）吹田善仁（b）、29（金）楠本なおこ（vo）小泉ゆうこ（p）岩高あつし（dr）、30（土）長井美恵子（p）若林美佐（b）森本優こ（fl）

★イエローリボン　☎0798･34･2872
9（土）Trackers、10（日）Liverpool、13（水）Country Dance Lesson、16（土）Kenuorth、17（日）X WoodStock Band、23（土）Fools Silver、30（土）Stawnpede

★萬屋宗兵衛　☎078･332･1963
9（土）BREEZE（Powerful A-Cappella Group）、10（日）黒田卓也（tp）朱恵仁（p）中村薫平（b）清水勇博（dr）、22（金）いとう翔（vo）多田恵美子（p）神田芳朗（b）中島俊夫（dr）、23（土）FIVE　SOUNDS（B級ソウルジャズ大作戦）／久井康次（g）松本マンボ（org）藤本ゴン（b）ボス河内（sax）小松竜吉（sax）土居秀行（dr）

TICKET PRESENT チケットプレゼント

<ART>
★神戸市立小磯記念美術館（9／23〜12／3「田村孝之介と神戸」有効）ペア10組
★大丸ミュージアムＫＯＢＥ（9／21〜10／3「オードリー・ヘプバーン展」有効）ペア２組
<CINEMA>
★パルシネマしんこうえん（10月末まで有効）2名▽9／6〜15「ストレイト・ストーリー」「ナビィの恋」▽9／16〜22「マーシャル・ロー」「スリー・キングス」▽9／23〜10／2「ほんとうのジャクリーヌ・デュ・プレ」「シャンドライの恋」
★シネモザイク1〜4（10月末まで有効）2名▼1▽9／中旬〜「U−571」▽「インビジブル」▼2▽9／下旬〜「X−MEN」▼3▽「ホワイトアウト」▽10／7〜「五条霊戦記」▼4▽「タイタンA．E」9／中旬〜「60セカンズ」
★ペレーネシネマ・カナートホール（10月末まで有効）ペア5組▽〜9／22「ホワイトアウト」
★西灘劇場（10月末まで有効）ペア5組▽〜9／8「いちげんさん」「硝子の城」以後未定
●ハガキかFAXで①希望するチケット②氏名③郵便番号④住所⑤年齢⑥職業⑦電話番号⑧9月号でおもしろかった記事とその理由を明記して下記まで（9／30必着）。
〒650-0011神戸市中央区下山手通3-1-18ツインズトアビル４Ｆ
（ＦＡＸ078-331-2795）月刊神戸っ子「もだかる0009」編集室

MODE CULT'S VOICE

●寺門孝之さんのファンなので、今年の神戸まつりのポスターはとても嬉しいです。いい色ですねえ。
須磨区・谷本さん

●「神戸新百景」シリーズは毎回楽しみにしています。７月号に関しては、何といっても「神戸まつり」の記事です。「神戸まつり」といえば神戸の夏の風物詩とも言われているほどで、毎年楽しみにしています。その記事がわかりやすく書かれていましたので食い入るように読みました。これで今年もスタンバイＯＫ！ 次号では、色艶やかな神戸まつりの報告の記事を楽しみにしています。
灘区・仲野さん

○今年も「月刊神戸っ子サンバチーム」はパレードに参加しました！ご報告は36・37ページにて掲載。暑かったです〜。感想のおハガキお待ちしています。